

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	広島工業大学専門学校
設置者名	学校法人鶴学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	IT スペシャリスト学科	夜・通信	9 単位	9 単位	
	情報学科	夜・通信	11 単位	6 単位	
	電気工学科	夜・通信	10 単位	6 単位	
	機械工学科	夜・通信	10 単位	6 単位	
	建築学科	夜・通信	10 単位	6 単位	
	土木工学科	夜・通信	10 単位	6 単位	
	建築士専攻科	夜・通信	10 単位	3 単位	
文化・教養専門課程	音響・映像メディア学科	夜・通信	9 単位	6 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

広島工業大学専門学校公式サイトに一覧表 PDF を掲載し公表
 教育情報の公表
 「大学等における修学の支援に関する法律」に基づく情報公開
 実務経験のある教員等による授業科目の一覧 (PDF)
<https://www.hitp.ac.jp/school/educational-info/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	広島工業大学専門学校
設置者名	学校法人鶴学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

鶴学園ホームページ（情報公開）で公開 https://www.tsuru-gakuen.ac.jp/info/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社 顧問	2022.2.17 ～ 2026.2.16	学校法人の運営全般（施設部門担当）
非常勤	会社 代表取締役会長	2023.4.1 ～ 2027.3.31	学校法人の運営全般（財務部門担当）
非常勤	法律会計事務所 弁護士	2024.6.1 ～ 2027 年度定 時評議員会	学校法人の運営全般（総務部門担当）
（備考）			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	広島工業大学専門学校
設置者名	学校法人鶴学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。													
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) (授業計画書(シラバス)の作成過程) ・当該年度の授業計画(シラバス)は、学則別表Ⅰに定める教育課程表に基づき、前年度の1月までに、非常勤講師を含む全教員が作成する。 ・作成にあたっては、各教科の到達目標や16回の授業内容(最終回は期末試験)及び方法を示すとともに、その各回の事前事後の学習内容を明記する。 ・成績評価は、評価方法とその評価基準、評価割合に基づく総合評価を明示する。その他、受講にあたっての留意事項も記載する。 (授業計画書の公表時期) ・授業計画書(シラバス)は新年度開始時期に公開し、学生が閲覧できるようにしている。													
授業計画書の公表方法	「広島工業大学専門学校 シラバス」を本校事務室に備えており、窓口受付時間で閲覧を希望する学生及び一般の者に対し、閲覧を認めている。												
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。													
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) (単位授与又は履修認定の厳格かつ適切な実施状況) ・各授業科目の単位認定方法は、各授業科目のシラバスに明示している。 ・単位認定にあたっては、試験、レポート、作品、その他成果発表等の評価を総合して判定する。評価手段及び評価割合はシラバスに明示する。 ・単位の評価の評語S、A、B、C、Dは、評語の各数値基準に基づき評価し、S、A、B、Cを合格とする。 【成績評価の基準】 <table> <tr> <td>評価</td><td>素点</td></tr> <tr> <td>S(秀)</td><td>90～100</td></tr> <tr> <td>A(優)</td><td>80～89</td></tr> <tr> <td>B(良)</td><td>70～79</td></tr> <tr> <td>C(可)</td><td>60～69</td></tr> <tr> <td>D(不可)</td><td>60未満・未受験</td></tr> </table>		評価	素点	S(秀)	90～100	A(優)	80～89	B(良)	70～79	C(可)	60～69	D(不可)	60未満・未受験
評価	素点												
S(秀)	90～100												
A(優)	80～89												
B(良)	70～79												
C(可)	60～69												
D(不可)	60未満・未受験												

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) (指標の算出方法) • GPAは次の計算式によって求める。 $\text{GPA} = (\text{履修科目の評価} \times \text{単位数}) \text{の合計} \div \text{履修科目の総単位数}$ • 履修科目の評価は、評価Sを4点、Aを3点、Bを2点、Cを1点とし、単位を取得した科目の単位数を乗じて総合点を求め、履修した科目の総単位数で除し、第二位を四捨五入し小数第一位で求める。 • 本計算式は学生便覧に掲載し、学生に公表している。 (客観的な指標の適切な実施状況) • 各クラス内でのGPA分布を、4点から0点までの人数分布で表示する。 • クラス順位は、各年度GPAの通算数値の大きさ順に、上位から順に定める。 • GPAは、年度末までの特待生選考や、大学編入学推薦における選考基準の他、奨学金の廃止・警告の基準に用いる。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	学生便覧に記載し、学生に配付するとともに、学生便覧をPDFでホームページに掲載している。 広島工業大学専門学校 学生便覧 GPA (PDF 10 ページ) https://www.hitp.ac.jp/users/student/#handbook
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) (卒業の認定に関する方針) • 職業実践専門課程として認定された教育課程表に定められている専門的かつ実践的な授業や実習・演習を履修し、学則に定める所定の単位を修得するとともに、目標とする各種資格の学修を修め、習得した専門の知識・技術に基づく実践力と人間力を身に付けた者に対して卒業を認定し、専門士の称号を授与する。 • 卒業に必要な単位数は、学則に定めており、学生便覧に卒業の要件として掲載し、学生に公表している。 (卒業の認定に関する方針の適切な実施状況) • 年度末に認定方針に基づき全教育職員で構成する卒業判定会議において卒業認定を行う。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	広島工業大学専門学校公式サイトにPDFを掲載し公表 教育情報の公表 (2)各学科等の教育 卒業の認定に関する方針 (PDF) https://www.hitp.ac.jp/school/educational-info/ 広島工業大学専門学校 学生便覧 学則・諸規則 学則 (PDF 28 ページ) (卒業) 第29条 https://www.hitp.ac.jp/users/student/#handbook

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	広島工業大学専門学校
設置者名	学校法人鶴学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人鶴学園ホームページ（財政状況）で公開 URL : https://www.tsuru-gakuen.ac.jp/info/finace.html
収支計算書又は損益計算書	学校法人鶴学園ホームページ（財政状況）で公開 URL : https://www.tsuru-gakuen.ac.jp/info/finace.html
財産目録	学校法人鶴学園ホームページ（財政状況）で公開 URL : https://www.tsuru-gakuen.ac.jp/info/finace.html
事業報告書	学校法人鶴学園ホームページ（事業報告）で公開 URL : https://www.tsuru-gakuen.ac.jp/info/report.html
監事による監査報告（書）	学校法人鶴学園ホームページ（財政状況）で公開 URL : https://www.tsuru-gakuen.ac.jp/info/finace.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	IT スペシャリスト学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	141 単位時間／単位	162 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	19 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			181 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数
45 人		58 人	3 人	4 人	10 人		14 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） （授業計画（シラバス）の作成過程） ・当該年度の授業計画（シラバス）は、学則別表Ⅰに定める教育課程表に基づき、前年度の１月までに、非常勤講師を含む全教員が作成する。 ・作成にあたっては、各教科の到達目標や１６回の授業内容（最終回は期末試験）及び方法を示すとともに、その各回の事前事後の学習内容を明記する。 ・成績評価は、評価方法とその評価基準、評価割合に基づく総合評価を明示する。その他、受講にあたっての留意事項も記載する。
（授業計画の公表時期） ・授業計画（シラバス）は新年度開始時期に公開し、学生が閲覧できるようにしている。
成績評価の基準・方法
（概要） （単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況） ・各授業科目の単位認定方法は、各授業科目のシラバスに明示している。 ・単位認定に当たっては、試験、レポート、作品、その他成果発表等の評価を総合して判定する。 ・単位の評価の評語Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄは、評語の各数値基準に基づき評価し、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃを合格とする。
【成績評価の基準】 評価 素点 Ｓ（秀） 90～100 Ａ（優） 80～89 Ｂ（良） 70～79 Ｃ（可） 60～69 Ｄ（不可） 60 未満・未受験
卒業・進級の認定基準
（概要） （進級の認定に関する方針） ・広島工業大学専門学校学則別表Ⅰの教育課程表に定める学科毎の各年次必修及び必修選択科目について、その授業時間数、評価に基づく単位を修得した者を進級させる。

(卒業の認定に関する方針) ・職業実践専門課程として認定された教育課程表に定められている専門的かつ実践的な授業や実習・演習を履修し、学則に定める所定の単位を修得するとともに、目標とする各種資格の学習を修め、習得した専門の知識・技術に基づく実践力と人間力を身に付けた者に対して卒業を認定し、専門士の称号を授与する。 ・卒業に必要な単位数は、学則に定めており、学生便覧に卒業の要件として掲載し、学生に公表している。 (卒業の認定に関する方針の適切な実施状況) ・年度末に認定方針に基づき全教育職員間で構成する卒業判定会議において卒業認定を行う。
学修支援等
(概要) ・入学後2日間のオリエンテーション・ゼミナールで、チュータを中心に学科毎に学修・生活指導を実施している。 ・必修の授業科目「生き方講座」で教養やキャリア形成について講義すると共に、学修面・生活面の留意点を指導している。 ・4月から5月に涉ってチュータが入学生一人ひとりに面談し、結果を学生記録に記入。 ・各授業科目の出欠席状況を把握し、教員間で共有し、欠席率が高い学生を指導している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
24人 (100%)	2人 (8.3%)	20人 (83.3%)	2人 (8.3%)
(主な就職、業界等) (株)アルファシステムズ, (株)プロビズモ, (株)ECS, (株)メイプルソフト, (株)リマック, (株)ブラージュ, (株)コトブキソリューション, (株)ソルコム 他			
(就職指導内容) ・卒年次各クラスのチュータと就職支援室職員が連携し、10月に保護者対象就職説明会、11月に学生への就職ガイダンスを開催する。 ・学生に就職ハンドブックを配付し、就職活動に向けて準備を実施する。 ・学生は、チュータと就職部職員の紹介で企業を訪問し、その後、エントリーシートを準備、チュータや就職部職員から面接の指導を受け、入社試験に臨む。 ・学校は、学生が、企業のセミナー、SPI試験の体験及び文章技術等を授業の中で学習し就職活動へ準備できるよう配慮している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者試験, 情報システム試験, 情報処理技能検定（表計算）, 日本語ワープロ検定 他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
62 人	0 人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・毎月一度、学科長を中心に校長が出席会議を招集し、出席率が 80%以下の学生をリストアップするとともに、特に出席率が 70%以下の学生については注意が必要として理由や指導法を共有するようにしている。 ・必要に応じて保護者を交えて学生と三者懇談を実施し、学生の就学状況の改善を図る。 ・外部講師による、就学状況に問題のある学生の指導法について研修会を開催し、教職員が受講している。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	情報学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	94 単位時間／単位	102 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	24 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			126 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50 人		23 人	0 人	4 人	12 人	16 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） （授業計画（シラバス）の作成過程） ・当該年度の授業計画（シラバス）は、学則別表Ⅰに定める教育課程表に基づき、前年度の1月までに、非常勤講師を含む全教員が作成する。 ・作成にあたっては、各教科の到達目標や16回の授業内容（最終回は期末試験）及び方法を示すとともに、その各回の事前事後の学習内容を明記する。 ・成績評価は、評価方法とその評価基準、評価割合に基づく総合評価を明示する。その他、受講にあたっての留意事項も記載する。 （授業計画の公表時期） ・授業計画（シラバス）は新年度開始時期に公開し、学生が閲覧できるようにしている。													
成績評価の基準・方法													
（概要） （単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況） ・各授業科目の単位認定方法は、各授業科目のシラバスに明示している。 ・単位認定に当たっては、試験、レポート、作品、その他成果発表等の評価を総合して判定する。 ・単位の評価の評語S、A、B、C、Dは、評語の各数値基準に基づき評価し、S、A、B、Cを合格とする。 【成績評価の基準】 <table> <tr> <td>評価</td><td>素点</td></tr> <tr> <td>S（秀）</td><td>90～100</td></tr> <tr> <td>A（優）</td><td>80～89</td></tr> <tr> <td>B（良）</td><td>70～79</td></tr> <tr> <td>C（可）</td><td>60～69</td></tr> <tr> <td>D（不可）</td><td>60 未満・未受験</td></tr> </table>		評価	素点	S（秀）	90～100	A（優）	80～89	B（良）	70～79	C（可）	60～69	D（不可）	60 未満・未受験
評価	素点												
S（秀）	90～100												
A（優）	80～89												
B（良）	70～79												
C（可）	60～69												
D（不可）	60 未満・未受験												
卒業・進級の認定基準													
（概要） （進級の認定に関する方針） ・広島工業大学専門学校学則別表Ⅰの教育課程表に定める学科毎の各年次必修履修及び必修選択科目について、その授業時間数、評価に基づく単位を修得した者を進級させる。													

(卒業の認定に関する方針) ・職業実践専門課程として認定された教育課程表に定められている専門的かつ実践的な授業や実習・演習を履修し、学則に定める所定の単位を修得するとともに、目標とする各種資格の学習を修め、習得した専門の知識・技術に基づく実践力と人間力を身に付けた者に対して卒業を認定し、専門士の称号を授与する。 ・卒業に必要な単位数は、学則に定めており、学生便覧に卒業の要件として掲載し、学生に公表している。 (卒業の認定に関する方針の適切な実施状況) ・年度末に認定方針に基づき全教育職員間で構成する卒業判定会議において卒業認定を行う。
学修支援等
(概要) ・入学後2日間のオリエンテーション・ゼミナールで、チュータを中心に学科毎に学修・生活指導を実施している。 ・必修の授業科目「生き方講座」で教養やキャリア形成について講義すると共に、学修面・生活面の留意点を指導している。 ・4月から5月に涉ってチュータが入学生一人ひとりに面談し、結果を学生記録に記入。 ・各授業科目の出欠席状況を把握し、教員間で共有し、欠席率が高い学生を指導している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	2人 (10.5%)	16人 (84.2%)	1人 (5.3%)
(主な就職、業界等) (株)NEC フィールディング, (株)ソルコムマイスタ, (株)NDS ソリューション, (株)ニイダ (株)福山臨床検査センター, 日本自動化開発(株), 中国計器工業(株) 他			
(就職指導内容) ・卒年次各クラスのチュータと就職支援室職員が連携し、10月に保護者対象就職説明会、11月に学生への就職ガイダンスを開催する。 ・学生に就職ハンドブックを配付し、就職活動に向けて準備を実施する。 ・学生は、チュータと就職部職員の紹介で企業を訪問し、その後、エントリーシートを準備、チュータや就職部職員から面接の指導を受け、入社試験に臨む。 ・学校は、学生が、企業のセミナー、SPI試験の体験及び文章技術等を授業の中で学習し就職活動へ準備できるよう配慮している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 情報システム試験, ビジネス能力認定試験, 日商簿記検定初級, 日本語ワープロ検定, 情報処理技能検定試験（表計算） 他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
35 人	4 人	11.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・毎月一度、学科長を中心に校長が出席会議を招集し、出席率が 80%以下の学生をリストアップするとともに、特に出席率が 70%以下の学生については注意が必要として理由や指導法を共有するようにしている。 ・必要に応じて保護者を交えて学生と三者懇談を実施し、学生の就学状況の改善を図る。 ・外部講師による、就学状況に問題のある学生の指導法について研修会を開催し、教職員が受講している。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	電気工学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	94 単位時間／単位	78 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	44 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			122 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		51 人	0 人	4 人	14 人	18 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） （授業計画（シラバス）の作成過程） ・当該年度の授業計画（シラバス）は、学則別表Ⅰに定める教育課程表に基づき、前年度の1月までに、非常勤講師を含む全教員が作成する。 ・作成にあたっては、各教科の到達目標や16回の授業内容（最終回は期末試験）及び方法を示すとともに、その各回の事前事後の学習内容を明記する。 ・成績評価は、評価方法とその評価基準、評価割合に基づく総合評価を明示する。その他、受講にあたっての留意事項も記載する。 （授業計画の公表時期） ・授業計画（シラバス）は新年度開始時期に公開し、学生が閲覧できるようにしている。													
成績評価の基準・方法													
（概要） （単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況） ・各授業科目の単位認定方法は、各授業科目のシラバスに明示している。 ・単位認定に当たっては、試験、レポート、作品、その他成果発表等の評価を総合して判定する。 ・単位の評価の評語S、A、B、C、Dは、評語の各数値基準に基づき評価し、S、A、B、Cを合格とする。 【成績評価の基準】 <table> <tr> <td>評価</td><td>素点</td></tr> <tr> <td>S（秀）</td><td>90～100</td></tr> <tr> <td>A（優）</td><td>80～89</td></tr> <tr> <td>B（良）</td><td>70～79</td></tr> <tr> <td>C（可）</td><td>60～69</td></tr> <tr> <td>D（不可）</td><td>60 未満・未受験</td></tr> </table>		評価	素点	S（秀）	90～100	A（優）	80～89	B（良）	70～79	C（可）	60～69	D（不可）	60 未満・未受験
評価	素点												
S（秀）	90～100												
A（優）	80～89												
B（良）	70～79												
C（可）	60～69												
D（不可）	60 未満・未受験												
卒業・進級の認定基準													
（概要） （進級の認定に関する方針） ・広島工業大学専門学校学則別表Ⅰの教育課程表に定める学科毎の各年次必修及び必修選択科目について、その授業時間数、評価に基づく単位を修得した者を進級させる。													

(卒業の認定に関する方針) ・職業実践専門課程として認定された教育課程表に定められている専門的かつ実践的な授業や実習・演習を履修し、学則に定める所定の単位を修得するとともに、目標とする各種資格の学習を修め、習得した専門の知識・技術に基づく実践力と人間力を身に付けた者に対して卒業を認定し、専門士の称号を授与する。 ・卒業に必要な単位数は、学則に定めており、学生便覧に卒業の要件として掲載し、学生に公表している。 (卒業の認定に関する方針の適切な実施状況) ・年度末に認定方針に基づき全教育職員間で構成する卒業判定会議において卒業認定を行う。
学修支援等
(概要) ・入学後 2 日間のオリエンテーション・ゼミナールで、チュータを中心に学科毎に学修・生活指導を実施している。 ・必履修の授業科目「生き方講座」で教養やキャリア形成について講義すると共に、学修面・生活面の留意点を指導している。 ・4 月から 5 月に涉ってチュータが入学生一人ひとりに面談し、結果を学生記録に記入。 ・各授業科目の出欠席状況を把握し、教員間で共有し、欠席率が高い学生を指導している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
28 人 (100%)	1 人 (3.6%)	22 人 (78.6%)	5 人 (17.9%)
(主な就職、業界等) ㈱電力サポート中国、ﾌｼﾞﾀﾋﾞﾙﾏﾈﾃﾅﾝｽ(株)、(株)中電工、(株)中国計器工業、(株)NTTアール・エス・ジー（一財）中国電気保安協会、ｻﾝｺﾓﾐｽｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ(株)、下花建設(株)、(株)満長建設工業他			
(就職指導内容) ・卒年次各クラスのチュータと就職支援室職員が連携し、10 月に保護者対象就職説明会、11 月に学生への就職ガイダンスを開催する。 ・学生に就職ハンドブックを配付し、就職活動に向けて準備を実施する。 ・学生は、チュータと就職部職員の紹介で企業を訪問し、その後、エントリーシートを準備、チュータや就職部職員から面接の指導を受け、入社試験に臨む。 ・学校は、学生が、企業のセミナー、SPI 試験の体験及び文章技術等を授業の中で学習し就職活動へ準備できるよう配慮している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 第三種電気主任技術者、第一種二種電気工事士、2 級電気工事施工管理技士他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
59 人	2 人	3.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・毎月一度、学科長を中心に校長が出席会議を招集し、出席率が 80%以下の学生をリストアップするとともに、特に出席率が 70%以下の学生については注意が必要として理由や指導法を共有するようにしている。 ・必要に応じて保護者を交えて学生と三者懇談を実施し、学生の就学状況の改善を図る。 ・外部講師による、就学状況に問題のある学生の指導法について研修会を開催し、教職員が受講している。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	機械工学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	94 単位時間／単位	85 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	29 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			114 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		23 人	2 人	5 人	7 人	12 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） （授業計画（シラバス）の作成過程） ・当該年度の授業計画（シラバス）は、学則別表Ⅰに定める教育課程表に基づき、前年度の1月までに、非常勤講師を含む全教員が作成する。 ・作成にあたっては、各教科の到達目標や16回の授業内容（最終回は期末試験）及び方法を示すとともに、その各回の事前事後の学習内容を明記する。 ・成績評価は、評価方法とその評価基準、評価割合に基づく総合評価を明示する。その他、受講にあたっての留意事項も記載する。 （授業計画の公表時期） ・授業計画（シラバス）は新年度開始時期に公開し、学生が閲覧できるようにしている。													
成績評価の基準・方法													
（概要） （単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況） ・各授業科目の単位認定方法は、各授業科目のシラバスに明示している。 ・単位認定に当たっては、試験、レポート、作品、その他成果発表等の評価を総合して判定する。 ・単位の評価の評語S、A、B、C、Dは、評語の各数値基準に基づき評価し、S、A、B、Cを合格とする。 【成績評価の基準】 <table> <tr> <td>評価</td><td>素点</td></tr> <tr> <td>S（秀）</td><td>90～100</td></tr> <tr> <td>A（優）</td><td>80～89</td></tr> <tr> <td>B（良）</td><td>70～79</td></tr> <tr> <td>C（可）</td><td>60～69</td></tr> <tr> <td>D（不可）</td><td>60 未満・未受験</td></tr> </table>		評価	素点	S（秀）	90～100	A（優）	80～89	B（良）	70～79	C（可）	60～69	D（不可）	60 未満・未受験
評価	素点												
S（秀）	90～100												
A（優）	80～89												
B（良）	70～79												
C（可）	60～69												
D（不可）	60 未満・未受験												
卒業・進級の認定基準													
（概要） （進級の認定に関する方針） ・広島工業大学専門学校学則別表Ⅰの教育課程表に定める学科毎の各年次必履修及び必履修選択科目について、その授業時間数、評価に基づく単位を修得した者を進級させる。													

(卒業の認定に関する方針) ・職業実践専門課程として認定された教育課程表に定められている専門的かつ実践的な授業や実習・演習を履修し、学則に定める所定の単位を修得するとともに、目標とする各種資格の学習を修め、習得した専門の知識・技術に基づく実践力と人間力を身に付けた者に対して卒業を認定し、専門士の称号を授与する。 ・卒業に必要な単位数は、学則に定めており、学生便覧に卒業の要件として掲載し、学生に公表している。 (卒業の認定に関する方針の適切な実施状況) ・年度末に認定方針に基づき全教育職員間で構成する卒業判定会議において卒業認定を行う。
学修支援等
(概要) ・入学後2日間のオリエンテーション・ゼミナールで、チュータを中心に学科毎に学修・生活指導を実施している。 ・必修の授業科目「生き方講座」で教養やキャリア形成について講義すると共に、学修面・生活面の留意点を指導している。 ・4月から5月に涉ってチュータが入学生一人ひとりに面談し、結果を学生記録に記入。 ・各授業科目の出欠席状況を把握し、教員間で共有し、欠席率が高い学生を指導している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15 人 (100%)	2 人 (13.3%)	13 人 (86.7%)	0 人 (%)
(主な就職、業界等) 荻野工業(株)、内海造船(株)、タカオ(株)、(株)日本製鋼所、広島アルミニウム工業(株)、NDS ソリューション(株)、(株)KAZUM、山陽マシン(株)、(株)カナモト 等			
(就職指導内容) ・卒年次各クラスのチュータと就職支援室職員が連携し、10 月に保護者対象就職説明会、11 月に学生への就職ガイダンスを開催する。 ・学生に就職ハンドブックを配付し、就職活動に向けて準備を実施する。 ・学生は、チュータと就職部職員の紹介で企業を訪問し、その後、エントリーシートを準備、チュータや就職部職員から面接の指導を受け、入社試験に臨む。 ・学校は、学生が、企業のセミナー、SPI 試験の体験及び文章技術等を授業の中で学習し就職活動へ準備できるよう配慮している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 国家技能検定 2 級・3 級（普通旋盤・フライス盤・数値制御旋盤・マシニングセンタ・機械製図 CAD 製図）、危険物取扱者試験 乙 4 類 等			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26 人	0 人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・毎月一度、学科長を中心に校長が出席会議を招集し、出席率が 80%以下の学生をリストアップするとともに、特に出席率が 70%以下の学生については注意が必要として理由や指導法を共有するようにしている。 ・必要に応じて保護者を交えて学生と三者懇談を実施し、学生の就学状況の改善を図る。 ・外部講師による、就学状況に問題のある学生の指導法について研修会を開催し、教職員が受講している。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	建築学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	94 単位時間／単位	122 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	14 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			136 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数	兼任教員数	総教員数
160 人		81 人	0 人		5 人	13 人	18 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） （授業計画（シラバス）の作成過程） ・当該年度の授業計画（シラバス）は、学則別表Ⅰに定める教育課程表に基づき、前年度の1月までに、非常勤講師を含む全教員が作成する。 ・作成にあたっては、各教科の到達目標や16回の授業内容（最終回は期末試験）及び方法を示すとともに、その各回の事前事後の学習内容を明記する。 ・成績評価は、評価方法とその評価基準、評価割合に基づく総合評価を明示する。その他、受講にあたっての留意事項も記載する。 （授業計画の公表時期） ・授業計画（シラバス）は新年度開始時期に公開し、学生が閲覧できるようにしている。													
成績評価の基準・方法													
（概要） （単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況） ・各授業科目の単位認定方法は、各授業科目のシラバスに明示している。 ・単位認定に当たっては、試験、レポート、作品、その他成果発表等の評価を総合して判定する。 ・単位の評価の評語S、A、B、C、Dは、評語の各数値基準に基づき評価し、S、A、B、Cを合格とする。 【成績評価の基準】 <table> <tr> <td>評価</td><td>素点</td></tr> <tr> <td>S（秀）</td><td>90～100</td></tr> <tr> <td>A（優）</td><td>80～89</td></tr> <tr> <td>B（良）</td><td>70～79</td></tr> <tr> <td>C（可）</td><td>60～69</td></tr> <tr> <td>D（不可）</td><td>60 未満・未受験</td></tr> </table>		評価	素点	S（秀）	90～100	A（優）	80～89	B（良）	70～79	C（可）	60～69	D（不可）	60 未満・未受験
評価	素点												
S（秀）	90～100												
A（優）	80～89												
B（良）	70～79												
C（可）	60～69												
D（不可）	60 未満・未受験												
卒業・進級の認定基準													
（概要） （進級の認定に関する方針） ・広島工業大学専門学校学則別表Ⅰの教育課程表に定める学科毎の各年次必修及び必修選択科目について、その授業時間数、評価に基づく単位を修得した者を進級させる。													

(卒業の認定に関する方針) ・職業実践専門課程として認定された教育課程表に定められている専門的かつ実践的な授業や実習・演習を履修し、学則に定める所定の単位を修得するとともに、目標とする各種資格の学習を修め、習得した専門の知識・技術に基づく実践力と人間力を身に付けた者に対して卒業を認定し、専門士の称号を授与する。 ・卒業に必要な単位数は、学則に定めており、学生便覧に卒業の要件として掲載し、学生に公表している。 (卒業の認定に関する方針の適切な実施状況) ・年度末に認定方針に基づき全教育職員間で構成する卒業判定会議において卒業認定を行う。
学修支援等
(概要) ・入学後2日間のオリエンテーション・ゼミナールで、チュータを中心に学科毎に学修・生活指導を実施している。 ・必修の授業科目「生き方講座」で教養やキャリア形成について講義すると共に、学修面・生活面の留意点を指導している。 ・4月から5月に涉ってチュータが入学生一人ひとりに面談し、結果を学生記録に記入。 ・各授業科目の出欠席状況を把握し、教員間で共有し、欠席率が高い学生を指導している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
63 人 (100%)	29 人 (46.0%)	30 人 (47.6%)	4 人 (6.4%)
(主な就職、業界等) (株)池下設計、(株)良和ハウス、(株)ティーエスハマモト、(株)カドスコーポレーション、(株)金見工務店、(株)中電工業、(株)丸井産業、(株)積水ハウス建設、(株)YKKAP 等			
(就職指導内容) ・卒年次各クラスのチュータと就職支援室職員が連携し、10月に保護者対象就職説明会、11月に生徒への就職ガイダンスを開催する。 ・学生に就職ハンドブックを配付し、就職活動に向けて準備を実施する。 ・学生は、チュータと就職部職員の紹介で企業を訪問し、その後、エントリーシートを準備、チュータや就職部職員から面接の指導を受け、入社試験に臨む。 ・学校は、学生が、企業のセミナー、SPI試験の体験、及び文章技術等を授業の中で学習し就職活動へ準備できるよう配慮している。 ・インターンシップに積極的に参加するよう指導している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) インテリアコーディネーター、福祉住環境コーディネーター、リフォームスタイリスト、リビングスタイリスト、日本語ワープロ検定、情報処技能検定 等			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
117 人	10 人	8.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・毎月一度、学科長を中心に校長が出席会議を招集し、出席率が 80%以下の学生をリストアップするとともに、特に出席率が 70%以下の学生については注意が必要として理由や指導法を共有するようにしている。 ・必要に応じて保護者を交えて学生と三者懇談を実施し、学生の就学状況の改善を図る。 ・外部講師による、就学状況に問題のある学生の指導法について研修会を開催し、教職員が受講している。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	土木工学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	94 単位時間／単位	87 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	29 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			116 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数	兼任教員数	総教員数
80 人		25 人	0 人		3 人	13 人	16 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） （授業計画（シラバス）の作成過程） ・当該年度の授業計画（シラバス）は、学則別表Ⅰに定める教育課程表に基づき、前年度の1月までに、非常勤講師を含む全教員が作成する。 ・作成にあたっては、各教科の到達目標や16回の授業内容（最終回は期末試験）及び方法を示すとともに、その各回の事前事後の学習内容を明記する。 ・成績評価は、評価方法とその評価基準、評価割合に基づく総合評価を明示する。その他、受講にあたっての留意事項も記載する。 （授業計画の公表時期） ・授業計画（シラバス）は新年度開始時期に公開し、学生が閲覧できるようにしている。													
成績評価の基準・方法													
（概要） （単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況） ・各授業科目の単位認定方法は、各授業科目のシラバスに明示している。 ・単位認定に当たっては、試験、レポート、作品、その他成果発表等の評価を総合して判定する。 ・単位の評価の評語S、A、B、C、Dは、評語の各数値基準に基づき評価し、S、A、B、Cを合格とする。 【成績評価の基準】 <table> <tr> <td>評価</td><td>素点</td></tr> <tr> <td>S（秀）</td><td>90～100</td></tr> <tr> <td>A（優）</td><td>80～89</td></tr> <tr> <td>B（良）</td><td>70～79</td></tr> <tr> <td>C（可）</td><td>60～69</td></tr> <tr> <td>D（不可）</td><td>60 未満・未受験</td></tr> </table>		評価	素点	S（秀）	90～100	A（優）	80～89	B（良）	70～79	C（可）	60～69	D（不可）	60 未満・未受験
評価	素点												
S（秀）	90～100												
A（優）	80～89												
B（良）	70～79												
C（可）	60～69												
D（不可）	60 未満・未受験												
卒業・進級の認定基準													
（概要） （進級の認定に関する方針） ・広島工業大学専門学校学則別表Ⅰの教育課程表に定める学科毎の各年次必修履修及び必修選択科目について、その授業時間数、評価に基づく単位を修得した者を進級させる。													

(卒業の認定に関する方針) ・職業実践専門課程として認定された教育課程表に定められている専門的かつ実践的な授業や実習・演習を履修し、学則に定める所定の単位を修得するとともに、目標とする各種資格の学習を修め、習得した専門の知識・技術に基づく実践力と人間力を身に付けた者に対して卒業を認定し、専門士の称号を授与する。 ・卒業に必要な単位数は、学則に定めており、学生便覧に卒業の要件として掲載し、学生に公表している。 (卒業の認定に関する方針の適切な実施状況) ・年度末に認定方針に基づき全教育職員間で構成する卒業判定会議において卒業認定を行う。
学修支援等
(概要) ・入学後 2 日間のオリエンテーション・ゼミナールで、チュータを中心に学科毎に学修・生活指導を実施している。 ・必修の授業科目「生き方講座」で教養やキャリア形成について講義すると共に、学修面・生活面の留意点を指導している。 ・4 月から 5 月に涉ってチュータが入学生一人ひとりに面談し、結果を学生記録に記入。 ・各授業科目の出欠席状況を把握し、教員間で共有し、欠席率が高い学生を指導している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16 人 (100%)	1 人 (6.3%)	14 人 (87.5%)	1 人 (6.2%)
(主な就職、業界等) (株)田村建設、(株)クボタ建設、(株)弘栄土木、住吉工業(株)、錦建設(株)、下花建設(株)、山陽建設(株)、山陽工業(株)、あおみ建設(株)、(株)藤川興業所、河井建設工業(株)、(株)ワールド測量設計			
(就職指導内容) ・卒年次各クラスのチュータと就職支援室職員が連携し、10 月に保護者対象就職説明会、11 月に学生への就職ガイダンスを開催する。 ・学生に就職ハンドブックを配付し、就職活動に向けて準備を実施する。 ・学生は、チュータと就職部職員の紹介で企業を訪問し、その後、エントリーシートを準備、チュータや就職部職員から面接の指導を受け、入社試験に臨む。 ・学校は、学生が、企業のセミナー、SPI 試験の体験及び文章技術等を授業の中で学習し就職活動へ準備できるよう配慮している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 1 級土木施工管理技士補、2 級土木施工管理技士補、測量士補、2 級ビオトープ施工管理士、無人航空従事者 3 級、基礎技能、応用技能			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32 人	3 人	9.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・毎月一度、学科長を中心に校長が出席会議を招集し、出席率が 80%以下の学生をリストアップするとともに、特に出席率が 70%以下の学生については注意が必要として理由や指導法を共有するようにしている。 ・必要に応じて保護者を交えて学生と三者懇談を実施し、学生の就学状況の改善を図る。 ・外部講師による、就学状況に問題のある学生の指導法について研修会を開催し、教職員が受講している。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	建築士専攻科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
1 年	昼	48 単位時間／単位	34 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	17 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			51 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
40 人		28 人	0 人	5 人	3 人		8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）													
（概要） （授業計画（シラバス）の作成過程） ・当該年度の授業計画（シラバス）は、学則別表Ⅰに定める教育課程表に基づき、前年度の1月までに、非常勤講師を含む全教員が作成する。 ・作成にあたっては、各教科の到達目標や16回の授業内容及び方法を示すとともに、その各回の事前事後の学習内容を明記する。 ・成績評価は、評価方法とその評価基準、評価割合に基づく総合評価を明示する。その他、受講にあたっての留意事項も記載する。 （授業計画の公表時期） ・授業計画（シラバス）は新年度開始時期に公開し、学生が閲覧できるようにしている。													
成績評価の基準・方法													
（概要） （単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況） ・各授業科目の単位認定方法は、各授業科目のシラバスに明示している。 ・単位認定にあたっては、模擬試験や確認テスト等の評価を総合して判定する。評価手段及び評価割合はシラバスに明示する。 ・単位の評価の評語S、A、B、C、Dは、評語の各数値基準に基づき評価し、S、A、B、Cを合格とする。 【成績評価の基準】 <table> <tr> <td>評価</td><td>素点</td></tr> <tr> <td>S（秀）</td><td>90～100</td></tr> <tr> <td>A（優）</td><td>80～89</td></tr> <tr> <td>B（良）</td><td>70～79</td></tr> <tr> <td>C（可）</td><td>60～69</td></tr> <tr> <td>D（不可）</td><td>60未満・未受験</td></tr> </table>		評価	素点	S（秀）	90～100	A（優）	80～89	B（良）	70～79	C（可）	60～69	D（不可）	60未満・未受験
評価	素点												
S（秀）	90～100												
A（優）	80～89												
B（良）	70～79												
C（可）	60～69												
D（不可）	60未満・未受験												
卒業・進級の認定基準													
（概要） （修了の認定に関する方針） ・教育課程表に定められている専門的かつ実践的な授業や実習・演習を履修し、学則に定める所定の単位を修得するとともに、目標とする各種資格の学習を修め、習得した専門の知識・技術に基づく実践力と人間力を身に付けた者に対して修了を認定する。 ・修了に必要な単位数は、学則に定めており、学生便覧に修了の要件として掲載し、学生に公表している。													

(修了の認定に関する方針の適切な実施状況) ・これらの修了の認定方針は、学生便覧に掲載し公表する。年度末に認定方針に基づき全教育職員で構成する修了判定会議において修了認定を行う。
学修支援等
(概要) ・必履修の授業科目「生き方講座」で教養やキャリア形成について講義するとともに、学修面・生活面の留意点を指導している。 ・4月から5月に涉ってチュータが入学生一人ひとりに面談し、結果を学生記録に記入。 ・各授業科目の出欠席状況を把握し、教員間で共有し、欠席率が高い学生を指導している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
30 人 (100%)	0 人 (0.0%)	27 人 (90.0%)	3 人 (10.0%)
(主な就職、業界等) (株)積水ハウス建設中国四国、(株)福地建設、(株)岩田地崎建設、(株)アイダ設計 等			
(就職指導内容) ・学生に就職ハンドブックを配付し、就職活動に向けて準備を実施する。 ・学生は、チュータと就職部職員の紹介で企業を訪問し、その後、エントリーシートを準備、チュータや就職部職員から面接の指導を受け、入社試験に臨む。 ・学校は、学生が、企業のセミナー、SPI 試験の体験、及び文章技術等を授業の中で学習し就職活動へ準備できるよう配慮している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 二級建築士、2級建築施工管理技術検定（一次検定）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30 人	0 人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・毎月一度、学科長を中心に校長が出席会議を招集し、出席率が 80%以下の学生をリストアップするとともに、特に出席率が 70%以下の学生については注意が必要として理由や指導法を共有するようにしている。 ・必要に応じて保護者を交えて学生と三者懇談を実施し、学生の就学状況の改善を図る。 ・外部講師による、就学状況に問題のある学生の指導法について研修会を開催し、教職員が受講している。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
文化・教養		文化・教養 専門課程	音響・映像メディア 学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	94 単位時間／単位	126 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	18 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			144 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		55 人	0 人	3 人	15 人	18 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） （授業計画（シラバス）の作成過程） ・当該年度の授業計画（シラバス）は、学則別表Ⅰに定める教育課程表に基づき、前年度の１月までに、非常勤講師を含む全教員が作成する。 ・作成にあたっては、各教科の到達目標や１６回の授業内容（最終回は期末試験）及び方法を示すとともに、その各回の事前事後の学習内容を明記する。 ・成績評価は、評価方法とその評価基準、評価割合に基づく総合評価を明示する。その他、受講にあたっての留意事項も記載する。 （授業計画の公表時期） ・授業計画（シラバス）は新年度開始時期に公開し、学生が閲覧できるようにしている。
成績評価の基準・方法
（概要） （単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況） ・各授業科目の単位認定方法は、各授業科目のシラバスに明示している。 ・単位認定に当たっては、試験 レポート、作品、その他成果発表等の評価を総合して判定する。評価手段及び評価割合はシラバスに明示する。 ・単位の評価の評語Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄは、評語の各数値基準に基づき評価し、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃを合格とする。 【成績評価の基準】 評価 素点 Ｓ（秀） ９０～１００ Ａ（優） ８０～８９ Ｂ（良） ７０～７９ Ｃ（可） ６０～６９ Ｄ（不可） ６０ 未満・未受験
卒業・進級の認定基準
（概要） （進級の認定に関する方針） ・広島工業大学専門学校学則別表 １ の教育課程表に定める学科毎の各年次必修及び必修選択科目について、その授業時間数、評価に基づく単位を修得した者を進級させる。

(卒業の認定に関する方針) ・職業実践専門課程として認定された教育課程表に定められている専門的かつ実践的な授業や実習・演習を履修し、学則に定める所定の単位を修得するとともに、目標とする各種資格の学習を修め、習得した専門の知識・技術に基づく実践力と人間力を身に付けた者に対して卒業を認定し、専門士の称号を授与する。 ・卒業に必要な単位数は、学則に定めており、学生便覧に卒業の要件として掲載し、学生に公表している。 (卒業の認定に関する方針の適切な実施状況) ・これらの卒業の認定方針は、学生便覧に掲載し公表する。年度末に認定方針に基づき全教育職員で構成する卒業判定会議において卒業認定を行う。
学修支援等
(概要) ・入学後 2 日間のオリエンテーション・ゼミナールで、チュータを中心に学科毎に学修・生活指導を実施している。 ・必修の授業科目「生き方講座」で教養やキャリア形成について講義すると共に、学修面・生活面の留意点を指導している。 ・4 月から 5 月に涉ってチュータが入学生一人ひとりに面談し、結果を学生記録に記入。 ・各授業科目の出欠席状況を把握し、教員間で共有し、欠席率が高い学生を指導している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
22 人 (100%)	0 人 (0.0%)	20 人 (90.9%)	2 人 (9.1%)
(主な就職、業界等) (株)オーアンド・オー (有)中国映像センター (株)シグマコミュニケーションズ (株)てっぱん (株)ティ・ワイ・エスビジョン ニイダ(株) (株)トラストネットワーク (株)共同エディット (株)TSS プロダクション (株)SHINOMOTO-SE (株)XYZ ヒロマツホールディングス(株) (株)Cuevo (株)彩高堂 (株)サウンドシーク			
(就職指導内容) ・卒年次各クラスのチュータと就職支援室職員が連携し、10 月に保護者対象就職説明会、11 月に学生への就職ガイダンスを開催する。 ・学生に就職ハンドブックを配付し、就職活動に向けて準備を実施する。 ・学生は、チュータと就職部職員の紹介で企業を訪問し、その後、エントリーシートを準備、チュータや就職部職員から面接の指導を受け、入社試験に臨む。 ・学校は、学生が、企業のセミナー、SPI 試験の体験及び文章技術等を授業の中で学習し就職活動へ準備できるよう配慮している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 映像音響処理技術者資格認定試験、舞台機構調整技能検定 3 級、CG クリエイター検定ベーシック、MIDI 検定 3 級			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
48 人	1 人	2.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・毎月一度、学科長を中心に校長が出席会議を招集し、出席率が 80%以下の学生をリストアップするとともに、特に出席率が 70%以下の学生については注意が必要として理由や指導法を共有するようにしている。 ・必要に応じて保護者を交えて学生と三者懇談を実施し、学生の就学状況の改善を図る。 ・外部講師による、就学状況に問題のある学生の指導法について研修会を開催し、教職員が受講している。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
全学科	100,000 円	600,000 円	450,000 円	その他の内訳 (実験実習料 250,000 円) (施設設備資金 200,000 円)
建築士専 攻科	100,000 円	600,000 円	450,000 円	その他の内訳 (実験実習料 250,000 円) (施設設備資金 200,000 円)
修学支援（任意記載事項）				
・広島工業大学専門学校同窓会奨学金 ・特待生制度 [第一種特待生]（入学生対象） - A 特待（授業料全額免除） - B 特待（授業料半額免除） - C 特待（入学金免除） - S 特待（授業料の内 15 万円免除） [第二種特待生]（在学生対象） - A 特待（授業料全額免除） - B 特待（授業料半額免除） - C 特待（授業料の内 10 万円免除） [IT 特待] - 授業料半額免除 [建築士特待] - 授業料半額免除 ・高等教育の修学支援に係る学費減免				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 広島工業大学専門学校公式サイトで公開 情報公開 教育情報の公表 (9) 学校評価 自己評価報告書 (PDF) https://www.hitp.ac.jp/school/educational-info/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
(評価委員会の構成) ・学校関係者評価委員会は、次表に示すように、高等学校教諭(校長)、本校の学科・専攻分野に関連する企業又は団体(社団法人)の役職者、卒業生(同窓会会長)その他校長が必要と認めた者を含む6名以上の委員によって構成する。 ・学校関係者評価委員会は、前・後期末の合計2回実施している。 (評価結果の活用方法) ・第1回委員会は、本校の前年度の教育活動及び学校運営のあり方等について(評価項目)に記載の11の事項についての自己評価を報告し、その評価を依頼するとともに、当該年度の取り組みについて助言を得る。 ・第2回委員会では、校長は、前回委員会後、提出された評価結果及び改善策に基づき対応策を当委員会に提案し、それに対する助言を求める。 ・当委員会で取り纏めた意見は、当委員会の下に設置している各学科の教育課程編成委員会(学科教育職員、企業又は団体(社団法人)、学術関係者(大学)を含む2名以上の委員で構成)において、2年次以降の教育課程に反映させる。 (評価項目) (1) 教育理念・目的・育成人材像等、(2) 学校運営、(3) 教育活動、(4) 教育成果、(5) 学生支援、(6) 教育環境、(7) 学生の募集と受入、(8) 財務、(9) 法令等の遵守、(10) 社会貢献、(11) その他、校長から諮問された事項		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
高等学校 校長	令和6年4月1日から 令和8年3月31日	高等学校関係者
一般社団法人 常務理事	令和6年4月1日から 令和8年3月31日	業界団体理事 常務理事
公益社団法人 事務局長	令和7年4月1日から 令和9年3月31日	業界団体 事務局長
企業 技術本部 工場長	令和7年4月1日から 令和9年3月31日	企業 工場長
地元企業 取締役社長代行	令和7年4月1日から 令和9年3月31日	企業 取締役 地域 関係者
広島工業大学専門学校同窓会 会長	令和7年4月1日から 令和9年3月31日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 広島工業大学専門学校公式サイトで公開 情報公開 教育情報の公表		

(9) 学校評価 学校関係者評価（PDF） https://www.hitp.ac.jp/school/educational-info/
第三者による学校評価（任意記載事項）

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） 公表 URL アドレス 広島工業大学専門学校公式サイトで公開 情報公開 https://www.hitp.ac.jp/school/educational-info/

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H134310000149
学校名（〇〇大学 等）	広島工業大学専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人鶴学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		54人	51人	56人
内 訳	第Ⅰ区分	27人	25人	
	(うち多子世帯)			
	第Ⅱ区分	15人	12人	
	(うち多子世帯)			
	第Ⅲ区分	—	—	
	(うち多子世帯)			
	第Ⅳ区分（理工農）	—	—	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	—	—	
	区分外（多子世帯）			
家計急変による 支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				56人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	—
計	0人	0人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	—	0人	—

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	—	—	—
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	—	—	—
計	—	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。